

メールマガジン（教育・フィンランド）

フィンランドにおける義務教育期間は7～16歳の9年間です。義務教育開始前の1年間は就学前教育（6歳児教育）があり、学校で戸惑わないよう、地域や自治体によっては小学校内に設置し簡単な算数などの教育を実施しているところもあります。義務教育終了後は、高校または職業学校で学び、さらに、大学や応用科学大学（ポリテクニク）に進むことができます。

フィンランドでは、ほとんどが公立の学校で、私立学校は宗教的理念や特定の教育方法に基づく学校、インターナショナル・スクールなどに限定されています。義務教育段階の学校のうち、約97%が国または自治体（近隣自治体共同による場合もあり）で設置・運営されています。

国家及び自治体の予算の約11～12%が教育にあてられており、教育の機会均等の観点から、就学前教育・義務教育、その後、大学院まで、公私を問わず、全ての学校教育が無償で提供されています。就学前教育と義務教育においては、教材費や給食、遠隔地に住む児童の送迎にかかる費用も全て無料です。

ここで、首都ヘルシンキ市に隣接するエスポー市の小学校の様子をご紹介します。

この学校はエスポー市北部のヴィヘルカリオ地区にあり、市内では3番目に古い100年の歴史のある小学校です。7～13歳までの児童400人と職員38人（教員29人、補助職員9人）の比較的小規模な学校で、ICT（情報通信技術）を積極的に活用した教育が実施されています。

教室には4～8人掛けの机のほか、ソファやカーペットが置かれています。校長によると、授業では、タブレットを使用することが多く、机に着席することに重点を置いていないため、教室の扉は通常開けたままで出入り自由な状態にしているそうです。児童はそれぞれの安心できる場所で、また、落ち着く体勢で学習します。どこまで自由に動くかは児童次第ですが、教員は、学年、児童との信頼性や安全性により判断し、指導しているそうです。このような校内のスペースを自由に使った学習のほか、始業・終業のベルを鳴らさないなどアットホームな学校づくりにより、学校が児童にとっての快適な学習環境の場となり、学校が楽しいと感じる児童が増え、不登校防止につながっているそうです。



各自好きな場所、好きな体勢で学習

ロンドン事務所 田村所長補佐

参考資料

・フィンランド大使館

<http://www.finland.or.jp/public/default.aspx?nodeid=46063&contentlan=23&culture=ja-JP>

・参考文献：文部科学省『諸外国の教育行財政』ジアース教育新社、平成25年